

診療報酬(検体検査関連)についてのお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、厚生労働省保険局医療課長発通知(令和5年4月28日付、保医発0428第4号、令和5年5月1日適用)により、下記検査項目の保険請求が可能となりましたのでご案内申し上げます。

敬具

(記)

【適用日】：2023年5月1日

◎ 新たに保険収載された項目

検 査 項 目 名	実 施 料
血小板第4因子 - ヘパリン複合体抗体定性	420点
算 定 区 分	
区分番号「D011」 免疫血液学的検査【免疫学的検査 144点】	

- ア 血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体定性は、ヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。
イ 血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体定性は、イムノクロマト法により測定した場合に、420点を算定する。
ウ (略)

●弊社受託未定

◎ 新たに測定方法が追加された検査項目

検 査 項 目 名	実 施 料
肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)	136点
算 定 区 分	
区分番号「D007」 血液化学検査【生化学的検査 I 144点】	

「28」KL-6、「35」肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)及び「37」肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるものののみ算定する。

KL-6は、EIA法、ECLIA法又はラテックス凝集比濁法により、肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)はEIA法により、肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)は、EIA法又はラテックス免疫比濁法による。

※下線の測定法が追加されました。

●ラテックス免疫比濁法は受託未定

弊社受託中の依頼コードNo. 984 CLEIA法をご利用ください。

※裏面に続きます。

◎ 新たに測定方法が追加された検査項目

検 査 項 目 名	実 施 料
SARS-CoV-2 抗原検出(定量)	560点
算 定 区 分	
区分番号「D012」 感染症免疫学的検査【免疫学的検査 144点】	

ア (略)

イ SARS-CoV-2抗原検出(定量)は、～(中略)～COVID-19の患者であることが疑われる者に対しCOVID-19の診断を目的として化学発光酵素免疫測定法(定量)、電気化学発光免疫測定法(定量)、化学発光免疫測定法(定量)又は免疫光導波検出法によるSARS-CoV-2抗原検出(定量)を行った場合に限り、560点を算定する。～(略)

※下線部の測定法が追加されました。

●弊社受託未定

◎ 適用範囲が拡大された検査項目

検 査 項 目 名	実 施 料
HER2タンパク	690点
算 定 区 分	
区分番号「N002」 免疫染色(免疫抗体法) 病理組織標本作製【病理 130点】	

(1) 免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製は、病理組織標本を作製するにあたり免疫染色を行った場合に、方法(蛍光抗体法又は酵素抗体法)又は試薬の種類にかかわらず、1臓器につき1回のみ算定する。

ただし、「3」のHER2タンパクについては、化学療法歴のある手術不能又は再発乳癌患者について、過去に乳癌に係る「3」のHER2タンパクの免疫染色を実施した場合であって、抗HER2ヒト化モノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応の判定を補助する目的で薬事承認又は認証を得ている体外診断用医薬品を用いて、HER2が低発現であることを確認し抗HER2ヒト化モノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判定するためにHER2タンパクの免疫染色を再度行う場合に限り、当面の間、別に1回まで算定できる。なお、再度免疫染色が必要である医学的な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

(2)～(12) (略)

※下線部分が追加されました。

●弊社受託中 HER2/neuタンパク(染色法)をご依頼ください。